

創刊90年

『さとぼろ』とその時代

詩・版画・都市のモダニズム



坂牛郎 小椅子
デザイン：田上義也 1927年
個人蔵

1925年6月、札幌で詩と創作版木の雑誌が誕生しました。その名は、『さとぼろ』。創刊同人は外山卯三郎、齋藤護国、伊藤秀五郎、服部光平、宮澤孝、相川正義、宮井海平、伊藤義輝。彼らは北海道帝国大学（現・北海道大学）の学生と教師。自画・自刻・自刷りの版画を貼りこみ、詩やエッセイにより構成した、珠玉の雑誌でした。1929年、通算29号を最後に終刊し、活動期間は約4年という短いものでしたが、美術と文学はもろのんこと、音楽、演劇、建築など、さまざまな芸術の最新の動向に敏感に反応し、雑誌の刊行以外にも、展覧会、舞台などの活動を積極的に展開。『さとぼろ』は、1920年代後半の札幌における先鋭的な芸術動向をリードする、意欲的な運動体でした。

本展は、芸術雑誌『さとぼろ』全号の内容を紹介してその活動の軌跡を跡付けるとともに、代表的な創作版画を中心に展示。また、雑誌交換をおこなったことが確認できる、他の芸術雑誌をあわせて紹介し、日本の戦前の芸術雑誌の潮流における、『さとぼろ』の位置をうかがいあがせます。さらに、『さとぼろ』に参加した建築家・田上義也に焦点をあて、田上が『さとぼろ』の人脈とのかかわりの中から生み出していたモダンな建築や、住宅のために設計された家具も展示。札幌というモダン都市に根ざした芸術活動としての『さとぼろ』の性格を浮き彫りにします。

本展は、『さとぼろ』創刊90年を記念して開催するもので、北海道立文学館『さとぼろ』発見 大正昭和・札幌 芸術雑誌にかけた夢展（2016年1月30日～3月27日）と連携して企画するものです。

本展ならびに文学館『さとぼろ』発見展をあわせてご覧いただくことにより、札幌が生んだ芸術雑誌『さとぼろ』を、よりゆたかに味わっていただくことができるでしょう。



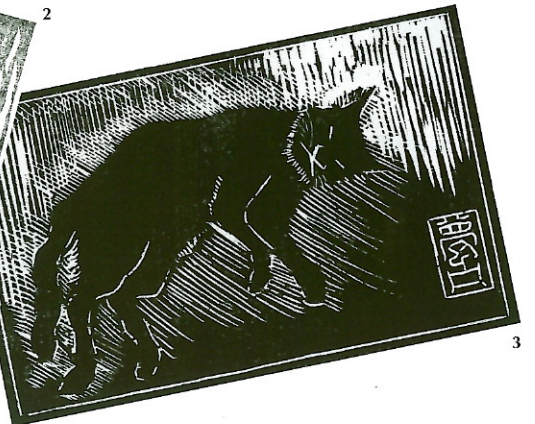
『さとぼろ』創刊号～3号
1925年6月～8月
当館蔵



1. 伊藤義輝《白石煉瓦場風景》『さとぼろ』3号 1925年8月



2. 西村真琴《パンジャラスの祈》『さとぼろ』3号 1925年8月



3. 西村真琴《夜を眠る猫》『さとぼろ』14号 1925年9月

いずれも当館蔵

関連事業

学芸員によるギャラリー・トーク

土曜日午後2時～（約30分）

- ことばとアート…1月30日・2月27日
- 国貞・国芳・英泉にみる江戸の女性の間人模倣…2月6日・3月5日
- 『さとぼろ』と日本のアヴァンギャルド芸術雑誌…2月13日・20日
- 遊び心と器一用いられることを拒否するカップ？…3月12日・19日

同時開催



冬季名品選 —ライリー《アレスト I》他 (展示室A・2階)

ブリジット・ライリー《アレスト I》1965年 当館蔵
©Bridget Riley 2015. All rights reserved,
courtesy Karsten Schubert, London

アートのことば(展示室A・1階3・4室)

芸術をめぐる古今東西の言葉にてらしあわせながら、当館コレクションをご覧いただけます。



『ゲエ・ギムギム・プルルル・ギムギム』
1927年(2007年復刻版) 当館蔵

こちらどうぞ

北海道立文学館

道立文学館開館20周年

『さとぼろ』発見 大正昭和・札幌 芸術雑誌にかけた夢
2016年1月30日(土)～3月27日(日)

札幌市中央区中島公園1番4号 TEL 011-511-7655
<http://www.h-bungaku.or.jp/>

三岸好太郎美術館

線は風のように—三岸好太郎の線描の魅力

2016年1月20日(水)まで

好太郎ライジング—若き日の挑戦

2016年1月30日(土)～3月27日(日)

札幌市中央区北2条西15丁目 TEL 011-644-8901

<http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/mkb/>

当館より
徒歩5分



北海道立近代美術館
Hokkaido Museum of Modern Art

〒060-0001 札幌市中央区北1条西17丁目
お問合せ 011-644-6882 テレフォンサービス 011-612-7000
ツイッター <https://twitter.com/dokinbi>
フェイスブック <http://facebook.com/dokinbi>